

## ②定期的な戦略・施策の見直し

### 現在の経済情勢を踏まえた今後の取組

#### 〔基本的認識〕

- ・米国経済の悪化を端緒とする世界的な経済情勢の悪化は我が国の経済にも甚大な影響
- ・一方、GDP成長率に対する情報通信産業の寄与率が4割であるように、我が国の成長力・国際競争力の強化の観点から情報通信技術の発展は極めて重要
- ・このため、我が国の成長力・国際競争力の強化に資する情報通信技術の研究開発を着実に推進するとともに、これらの研究開発の成果が確実に成長力・国際競争力強化につながるよう、産学官でロードマップを共有し我が国の関係者が一体となり、これに取り組むことが必要不可欠

#### 〔総務省における取組み〕

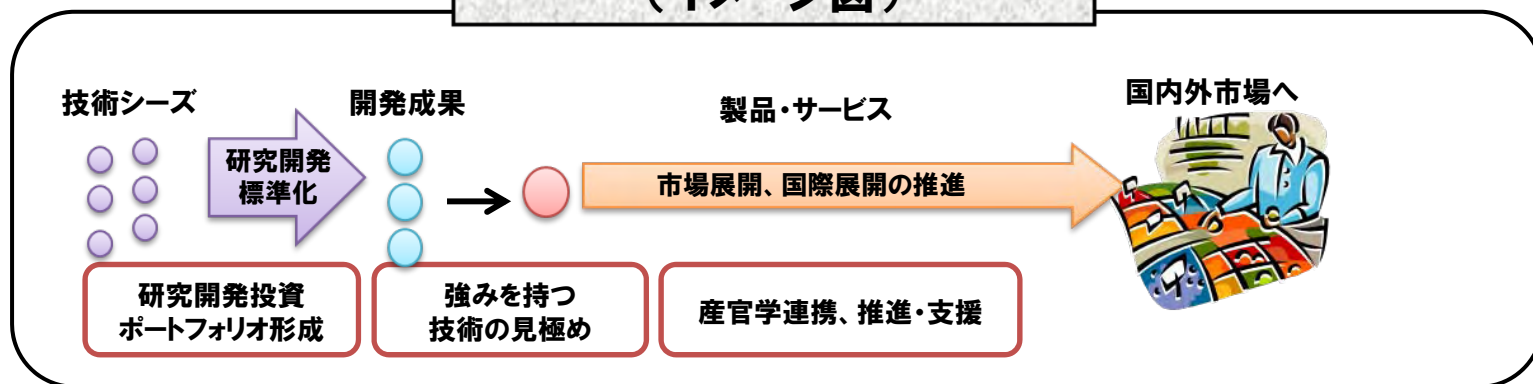
- ・今後のICT市場の構造変化、技術トレンド、利用者ニーズの動向等について展望し、2011～15年頃を視野にいれた総合的なICT政策の方向性(ビジョン)を描くことを目的として、「ICTビジョン懇談会(総務大臣の懇談会)」を本年10月に設置し、その中で今後の我が国の国際競争力強化のための技術戦略を検討する「技術戦略SWG」を設置。
- ・現在、同SWGにおいて、「ユビキタスネット社会」をさらに発展させていくためのICT政策ビジョンについて技術的な観点から検討を行い、今後我が国の強みとなる技術の見極めとその開発の加速化のための方策や国際展開方策等について議論をしているところ。今後、同懇談会の検討結果を踏まえ、平成22年度予算要求等に反映。

# (参考) 技術戦略SWGでの検討の柱

## 主な検討事項

- 5～10年後を見据えICTを取り巻く現状と課題を展望
  - ✓ 人口減少、経済低迷、国際競争力低下等の課題整理
  - ✓ 世界的な技術動向を踏まえた我が国の研究開発水準の分析 等
- 今後我が国の強みとなる技術分野の見極め
- 今後の技術戦略、支援方策
  - ✓ 研究開発・標準化にかかる戦略や支援方策、官民の役割分担

### 国際展開に向けた技術戦略 (イメージ図)



### ③国際標準化活動に対する取組強化

従来からのITUにおける電気通信事業者を中心とした標準化活動だけではなく、ベンダ等も含めて、実効性・機動性などを考慮しつつ、真の国際競争力を確保するための国際標準化活動を一層強化。

#### 総務省の取組み

〔より実効性の高い国際標準化活動の体制、活動〕

〔研究者による標準化活動強化〕

- ・平成20年6月、情報通信審議会から、企業や大学等に標準化活動重要性に対する認識を高めるための「ICT国際標準化推進ガイドライン」が盛り込まれた「我が国の国際競争力を強化するためのICT研究開発・標準化戦略」について答申を受けた
- ・我が国の国際競争力の確保に向けて、ITUでの標準化活動において国内ベンダーが活躍できる環境を整備
- ・我が国のネットワークロボット関連産業の国際競争力強化及び情報弱者支援における世界貢献の観点から、ITU、OMG技術部会等において、各国と議論を進め統一仕様を策定
- ・音声翻訳の多言語化のため、辞書などのデータフォーマット、通信プロトコルをAPT、ASTAPで標準化
- ・ブロードバンド環境やコンテンツ利用の拡大に対応したネットワークの大容量化・高機能化を「光」技術研究開発として産学官を結集して進め、ペタビット級ネットワーク構成技術の確立、オール光ネットワーク構成技術の確立を目指すとともに、国際標準化も見据え戦略的に推進

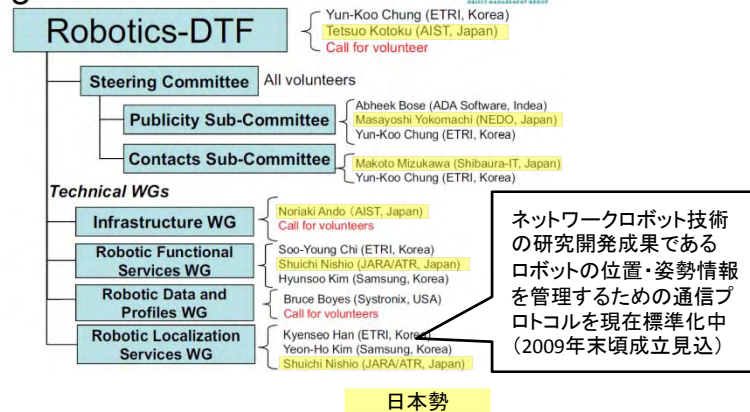
### ③国際標準化活動に対する取組強化

#### 主な成果

- 平成20年7月TTC、ARIB、CIAJ等のICT分野の標準化に関連する8機関により「ICT標準化・知財センター」を設立(情報通信分野における標準化活動の強化)
- 平成20年10月、ITU世界電気通信標準化総会(WTSA-08)において、今後4年間の研究課題、体制を決定。我が国からSG議長2名、副議長7名が選出(うち議長1名、副議長1名がベンダー出身)
- 標準化活動の普及・啓発のために「ICT国際標準化推進ガイドライン」を企業や大学等に配布(情報通信分野における標準化活動の強化)
- 平成20年8月に「ICT国際競争力強化を目指した標準化・知財戦略シンポジウム」を開催(情報通信分野における標準化活動の強化)
- OMGにおいて、ネットワークロボット技術及びそのアプリケーションに不可欠な位置、姿勢情報の標準化を提案し、平成21年度中に標準策定見込み(ネットワークロボット技術の研究開発)



#### Organization



日本勢

OMGでの標準化の体制図